



AIR DO

株式会社AIRDO

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目9
オーク札幌ビルディング

Webサイトはこちらから
www.airdo.jp



このパンフレットは、震災復興型カーボンオフセット用紙を使用することにより、CO₂削減活動並びに東日本大震災被災地復興を応援しています。

撮影場所/羽田空港
Photo/Hiroki INOUE (写真家)

北海道の翼 | 株式会社AIRDO

統合レポート2026





2026年、AIRDOは
設立30周年を迎えました

「北海道のために、この翼を」

あの日も、今日も、これからも。
変わらぬ想いを、この空に。



CONTENTS

- P01 「北海道のために、この翼を」
- P03 社長メッセージ
- P04 会社概要・役員紹介
- P05 沿革
- P06 組織図・新設組織について
- P07 使用機材・路線展開
- P08 企業理念・安全行動指針・CS行動指針・ブランドメッセージ
- P09 AIRDOの価値創造プロセス

- P10 サステナビリティの取り組み
- P11 AIRDOの今、これから
- P12 経営企画・IT推進 [企画部・IT推進部]
- P13 安全 [安全推進室]
- P15 運航 [運航本部]
- P17 整備 [整備事業室(リージョナルプラスウイングス)]
- P19 機内・空港・オペレーション [オペレーション統括室・運送本部]
- P21 マーケティング・営業 [営業部]
- P22 CX・CS [CX推進部]

- P23 商品・サービス [事業開発部]
- P24 地域 [北海道ブランド推進部]
- P25 人財・組織 [人事部]
- P26 コーポレートガバナンス
- P27 財務状況
- P29 リージョナルプラスウイングス 企業情報
- P30 リージョナルプラスウイングスグループ会社紹介

AIRDO統合レポート2026

制作・監修／株式会社AIRDO
北海道ブランド推進部 広報・渉外グループ
印刷／株式会社須田製版
表紙・撮影／井上浩輝(オフィス イノウエ)、AIRDO

【編集方針】

AIRDOはステークホルダーの皆様に対する説明責任の観点から、対話に代わる手段として本レポートを位置付け、財務情報に加え、非財務情報をお伝えすることを目的に編集しています。

✧ 社長メッセージ



AIRDOは、2026年に設立30周年という大きな節目を迎えることができました。私たちは「北海道の翼」として「安全を絶対的使命として追求します」という企業理念を掲げ、1996年の設立以来、「事故ゼロ、重大インシデントゼロ」を堅持してまいりました。この積み重ねこそが、30年にわたる歩みを支える揺るぎない基盤となっております。これまで共に歩み、支えてくださった皆様の温かいご支援に、心より深く感謝申し上げます。

2025年度の国内航空業界におきましては、価格競争が激しさを増す一方で、旅客需要は堅調に推移いたしました。しかしながら、長引く円安や物価・人件費の上昇等により、AIRDOを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあります。先般公表された「国内航空のあり方に関する有識者会議」の報告書におきましても、オンライン会議の定着に伴うビジネス需要の減少や、外貨建て費用・燃油費等のコスト上昇は「不可逆的なもの」であると指摘されております。同会議において、国内線事業全体が極めて厳しい危機的状況にあるとの認識が示されるとともに、従来の自由競争を原則としつつも路線特性に応じた「航空会社間の協調」を容認する方針が打ち出される等、航空業界はかつてない大きな転換点を迎えております。

このような環境下、AIRDOでは競争力のある緻密な運賃設定や、需要予測に基づく精緻な座席コントロール、高需要期における増便運航等を実施し、収益の最大化に努めました。「DOセール」の展開に加え、北海道日本ハムファイターズとのコラボレーションや、人気アニメ『ゴールデンカムイ』

とのタイアップを実施し、幅広い顧客層の獲得に注力いたしました。また、公式オンラインショップへの新カテゴリー「AIRDOセクション」新設によるEC事業の活性化、産地直送サービス「道産空輸 AIRDOダイレクト便」の拡充に加え、新千歳空港発として初となる「初日の出遊覧フライト」や「函館－鹿児島線」のチャーター便運航等、地域経済の発展と観光需要の創出にも寄与しております。これらの多角的な取り組みの結果、2025年度の全路線合計座席利用率は85.3%（前期比2.5ポイント増）、同期決算では営業収入がAIRDO史上最高を更新する534億円を超えました。

共同持株会社「リージョナルプラスウイングス（RPW）」のもと、最大の変革であったAIRDOとソラシドエアの航空機整備機能の集約およびオペレーションの一体化から2年が経過し、実務は定着しつつあり、グループ全体の経営基盤についても強化されております。

これからのAIRDOは、これまで培った信頼をベースに、持続可能な成長と地域社会への貢献を両立させる「サステナビリティ経営」を加速させると共に、構造的課題に正面から向き合い、新たな価値創造に挑戦し続けてまいります。今後の成長に向けては、「何を守り、何を变えていくべきか」を的確に見極めることが必要です。現在の厳しい環境下において真に重要なのは「変化への即応力」と「やりぬく力」であり、これらを発揮して収益構造の強化と持続的成長の実現を図ることが不可欠となります。急激な外部環境の変化にも柔軟に適応できる強靱な組織を構築し、健全な財務体質を確立することで、「北海道の翼」として信頼され続ける企業を目指していく所存です。

あわせて、これからも「安全運航」の堅持を不変の使命とし、お客様へ安心で心地よい空の旅をお届けできるよう、運航品質の更なる向上を追求してまいります。今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

株式会社AIRDO
代表取締役社長

鈴木 貴博

✧ 会社概要

商 号	株式会社AIRDO (AIRDO Co.,Ltd.)			資 本 金	1億円
設 立	1996年11月14日	事 業 内 容	定期航空運送事業	従 業 員 数	1,092名（2026年7月1日現在）
所 在 地	本社／北海道札幌市中央区北1条西2丁目9番地 オーク札幌ビルディング 東京事業所／東京都大田区羽田空港3丁目3-2 羽田空港第1旅客ターミナルビル内 東京空港支店／東京都大田区羽田空港3丁目4-2 羽田空港第2旅客ターミナルビル内 千歳空港支店／北海道千歳市美々 新千歳空港内 道東営業支店／北海道帯広市泉町西9線中8番地41 とかち帯広空港内 旭川空港所／北海道上川郡東神楽町東2線16号98番地 旭川空港内 女満別空港所／北海道網走郡大空町女満別中央201-3 女満別空港内 釧路空港所／北海道釧路市鶴丘2番地 釧路空港内 帯広空港所／北海道帯広市泉町西9線中8番地41 とかち帯広空港内 函館空港所／北海道函館市高松町511 函館空港内 仙台空港所／宮城県名取市下増田字南原 仙台空港内 中部空港所／愛知県常滑市セントレア1丁目 中部国際空港 セントレア内 神戸空港所／兵庫県神戸市中央区神戸空港1番 神戸空港内 福岡空港所／福岡県福岡市博多区下臼井778-1 福岡空港内				

✧ 役員紹介

取締役

役 職	氏 名	担当職務
代表取締役社長	鈴木 貴博	取締役会議長、経営戦略会議議長 安全推進委員会委員長、CX推進委員会委員長 内部監査 総括
取締役副社長	坂爪 浩	安全統括管理者、安全推進委員会副委員長 安全推進、オペレーション部門 統括 人事、マーケティング 総括
取締役	中園 幸男	運航 総括 運航本部長、上席機長室長
取締役	安廣 孝史	財務、総務 総括
取締役	近藤 允彦	企画、IT推進、北海道ブランド推進 総括

監査役

役 職	氏 名	担当職務
監査役	平尾 清之	常勤
監査役	増田 仁志	社外監査役、非常勤
監査役	江村 一幸	社外監査役、非常勤

執行役員

役 職	氏 名	担当職務
執行役員	池田 直樹	人事部長
執行役員	西山 猛	マーケティング本部長、営業部長
執行役員	青山 拓嗣	運送本部長
執行役員	島崎 勝識	整備 担当
執行役員	西堀 浩生	運航本部副本部長
執行役員	福島 茂	北海道ブランド推進部長

沿革

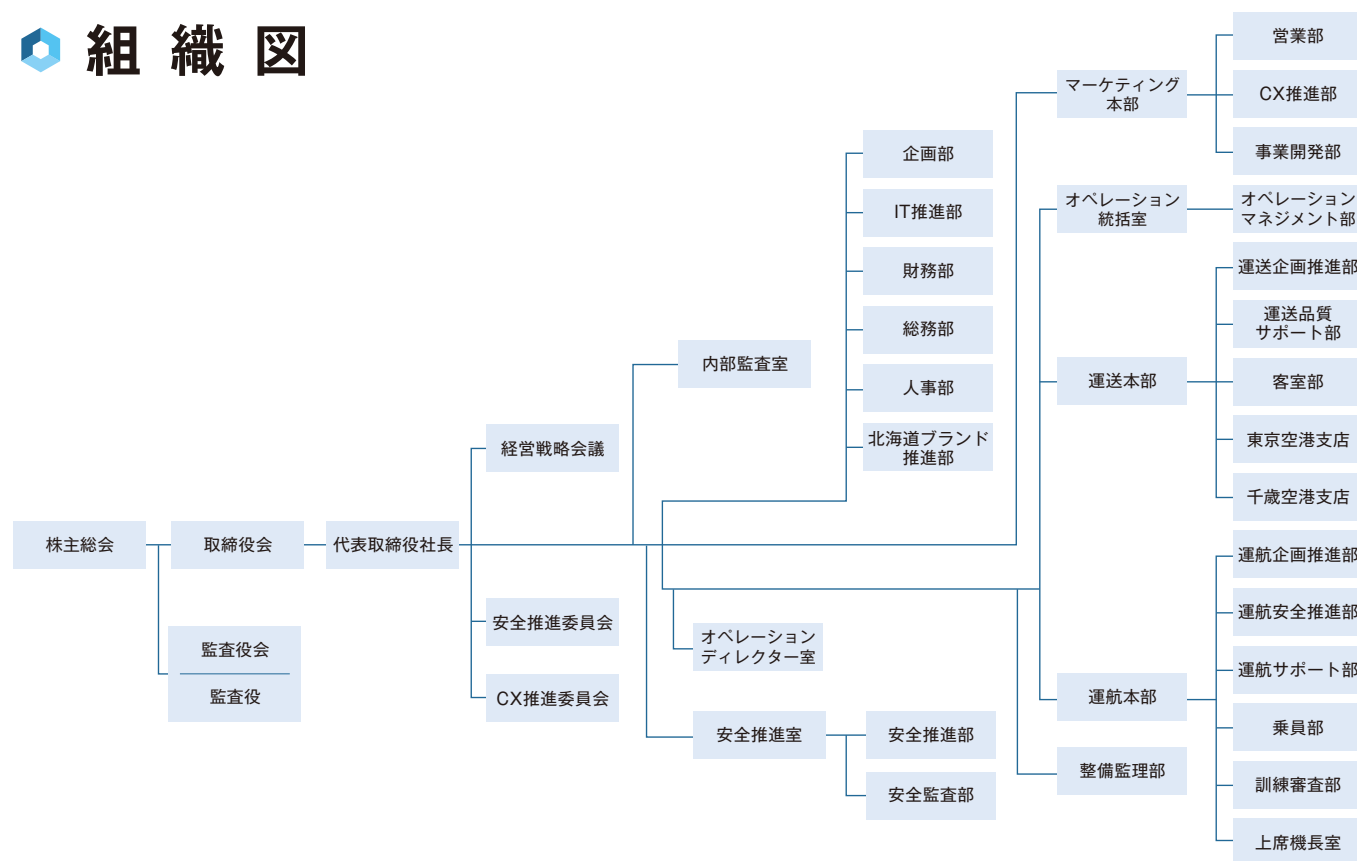


就航10周年!



就航20周年!

組織図



新設組織について

2026年4月1日付にて、北海道ブランド推進部・オペレーション統括準備室・事業開発部を新設しました。更に、オペレーション統括準備室においては、同年10月1日付にてオペレーション統括室へ改編しました。今般の組織改編で、これまで以上に本質的な課題解決力と生産性向上を図り、加えて、機能強化により信頼性と成長性を備えた「強い会社」を具現化させ、「北海道の翼」としてのブランド力の向上を図ります。

● 北海道ブランド推進部(サステナビリティ推進グループ／広報・渉外グループ)

従来の「北海道室」を発展的に解消し、「サステナビリティ推進グループ」と「広報・渉外グループ(総務部から移管・改称)」の2つのグループで構成しています。就航地域との関係強化によって持続可能な社会に向けた課題解決に努めると共に、AIRDOや北海道の魅力を広く発信し、企業価値を総合的に高めていきます。

● オペレーション統括室

運航統制能力およびイレギュラー対応能力の更なる強化と、より安全かつ高品質な運航を持続的に実現すべくオペレーションに関わる業務を統括する組織として新設しました。

関連する機能を集約し、一元的に管理することで会社全体のオペレーション品質の向上を実現します。

● 事業開発部

ECサイト、機内販売・サービス、道産空輸をはじめとする旅客収入以外の事業領域を拡大すべく、商品戦略の企画・展開および新規事業開発を担う部署として新設しました。

魅力ある商品の調達・販促や機内販売・サービスの企画開発のほか、自社便を活用した「産直品取引仲介・流通支援事業」の本格展開に向け、道産品の魅力発信と販売拡大に取り組んでいます。

使用機材



ボーイング 767-300ER

全長54.94m、全幅47.57m、全高15.85m
座席数288席
最大飛行高度* 約13,150m 巡行速度* 約862km/h



ボーイング 737-700

全長33.60m、全幅35.80m、全高12.50m
座席数144席
最大飛行高度* 約12,500m 巡行速度* 約830km/h

※AIRDOの運航諸元による

路線展開

北海道と道外を結ぶ「北海道の翼」として、
道内**6都市**と本州・福岡間**11路線**を運航しています。

運航路線

AIRDOは現在、道内の6都市と本州各地・福岡の5都市を結ぶ11路線で、
1日64便*を運航しています。

「北海道の翼」として、地域社会の発展に貢献すべく、
路線展開を進めてきました。

※一部夜間帯運航便未設定時、定期増便運航時を除く

新千歳	←→	羽田
旭川	←→	羽田
函館	←→	羽田
女満別	←→	羽田
帯広	←→	羽田
釧路	←→	羽田
新千歳	←→	仙台
新千歳	←→	中部
新千歳	←→	神戸
新千歳	←→	福岡
函館	←→	中部



企業理念・安全行動指針・CS行動指針

企業理念

安全を絶対的使命として追求します
お客様に感動していただける空の旅を提供します
コスト意識を持って企業競争力を強化します
人を活かし育み、活力ある企業風土を創造します
北海道の翼として地域社会の発展に貢献します

安全行動指針

判断・遵守

曖昧な判断はせず、
確信がない場合は安全を最優先に行動します

報告・共有

情報は迅速かつ的確に報告し、
組織を超えて共有します

理解・傾聴

周囲の意見に耳を傾け、自分の考えを声にして、
コミュニケーションを大切にします

プロ・使命

教訓から学び、自覚と責任を持って
プロフェッショナルとしての技倆を高め続けます

CS行動指針

お客様のために、
高い志と情熱を持ち、
自分ができることを考え抜いて行動します

お客様のために、
強いチームワークで、
期待を超える満足を創造します

お客様のために、
北海道の翼として、
新たな価値の実現に挑戦し続けます

ブランドメッセージ

BRAND VISION | 私たちのありたい姿

『もっと身近に、もっと上質に、空の旅を通じて人々の心を豊かに』

BRAND CONCEPT | お客様との約束

Frontier Spirit	New Value	Our Hospitality
私たちは、北海道で生まれた航空会社です。 創業から脈々と受け継がれてきた精神、 それは「Frontier Spirit」です。 この精神を胸に、自由な発想で、 不断の挑戦を続けていきます。	私たちは、手の届きやすい価格と 上質なサービスの両立を叶えます。 「すべてが、あなたにとってちょうどいい」 世の中に新しい価値を提供する 「New Value Carrier」です。	私たちは、さり気ないけど あたたかい「おもてなし」を 大切にしています。 ここにしかない上質な空間を、 そして安心を、もっと身近に。

TAGLINE

『北海道の翼』

北海道で「生まれ育った」翼として、北海道の魅力を日本中、世界中に伝えていくことはAIRDOの使命です。
私たちはAIRDOブランドを形にしお届けすることで、その使命を果たしていきます。
どんな時であっても大空を飛び続け、「道内では、地域の誇りや愛着を呼び起こし」
「道外では、存在そのものが北海道を表わす」航空会社になる。その覚悟を示した言葉です。

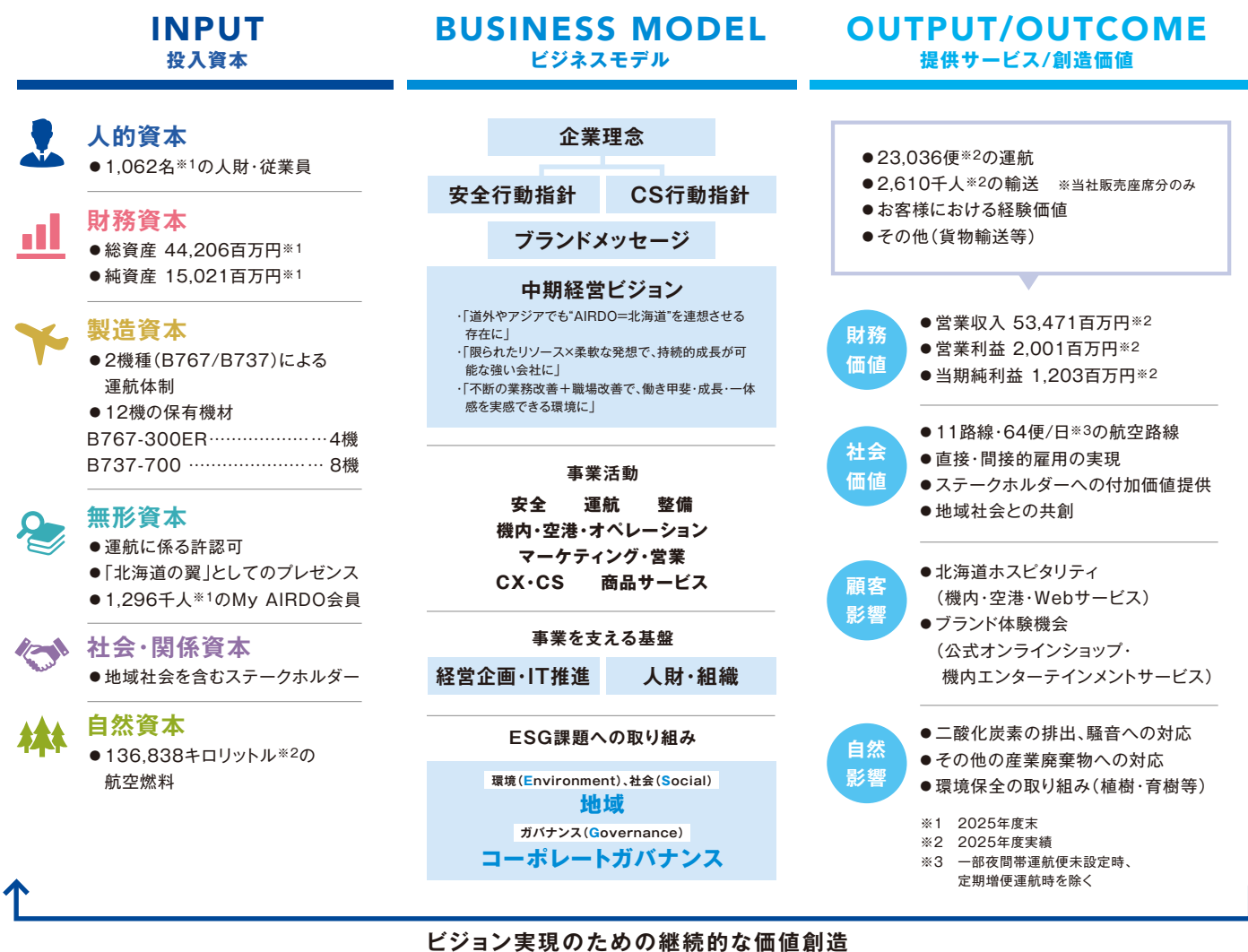
AIRDOの価値創造プロセス

AIRDOでは、「企業理念」および「安全」「CS」における2つの行動指針のもと、各種資本を効率的に活用した事業活動により、「北海道の翼」として独自の航空輸送サービスを提供しています。

継続的な価値創造を通じて、北海道に根差した航空会社としての企業価値の最大化と、持続的かつ安定した成長を目指していきます。



投入資本・創造価値(年度実績)		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人的資本	従業員数(人)	931	1,004	1,082	1,158	1,062
財務資本	財務状況(P.27)をご参照ください。					
無形資本	My AIRDO会員数(千人)	863	939	1,049	1,171	1,296
社会・関係資本 *ANAへの座席販売分は含まず	運航便数(便)	18,967	22,509	23,712	23,550	23,036
	提供座席数(千席)	2,433	2,935	3,043	3,069	3,060
	有償旅客数(千人)	1,162	2,041	2,442	2,541	2,610
	座席キロ(千席キロ)	2,295,617	2,787,239	2,897,336	2,915,932	2,912,005
	旅客キロ(千人キロ)	1,091,204	1,942,133	2,324,017	2,413,262	2,483,921
	座席利用率(%)	47.5	69.7	80.2	82.8	85.3
製造資本	機材数 B767(機)	4	4	4	4	4
	B737(機)	8	8	8	8	8
自然資本	燃料消費量(キロリットル)	101,879	128,469	138,179	139,276	136,838



AIRDOの今、これから



経営企画・IT推進

| 企画部・IT推進部

道外やアジアでも“AIRDO=北海道”を連想させる存在となるべく、旺盛な国内旅行需要や訪日旅客数の増加が著しいアジア市場の動向を調査・分析し、戦略的かつ効果的な事業展開を推進していきます

役割 ● 機能

企画部とIT推進部は、日々変化する事業環境・経営環境の中で、限られたリソースにて柔軟な発想による経営指標や各種データの分析を行い、役員層の迅速な経営判断を支援しています。また、経営戦略の策定と実行、事業計画の立案、予算の編成・執行管理、通信インフラをはじめとしたIT環境整備、更には社会的課題への対応等、経営支援機能とフロントライン*支援機能を担っています。

なお、機材計画・路線計画については、AIRDO独自の戦略を策定しています。

※パイロットやCA、整備、旅客係員、運航管理等、日々の運航に直接携わる部門

取り組み ● 業務内容

1 機材計画

「北海道の翼」AIRDOの路線特性および季節による需要の増加に対応するため、中型機（ボーイング767）と小型機（ボーイング737）の2機種体制で運航しています。商品競争力の強化、安定的な輸送体制の構築、利便性と快適性の向上並びに低燃費機材の運航によるCO₂排出量の削減等、多角的に検討を重ね、新機材の導入に向けた機材更新計画を着実に遂行していきます。



2 路線計画

就航率や定時性をはじめとする運航品質の更なる向上に取り組み、季節需要に応じた柔軟な機材投入や積極的な臨時便の運航を通じて、利便性と収益性を兼ね備えたダイヤ編成を目指しています。また北海道と各地域間の需要の高まりに応えるべく、多客期における定期増便やチャーター便も運航する等、保有する2機種を最大限に活用し、効率的な運航を追求することで、利便性の向上と地域社会への貢献を果たし、更なる成長戦略の実現へと挑戦し続けていきます。

3 設備投資

安全性の更なる向上を土台に、お客様サービスと収益性の向上を追求すると共に、ソラシドエアとの協業を一層推進し、生産性向上に資する設備投資を進めています。IT活用や施設展開をはじめ、リージョナルプラスグループのスケールメリットを最大限に活かし、投資効率の更なる向上に努めています。

4 業務提携

主要株主であるANAホールディングス株式会社様およびグループ各社との間で、共同運航による座席販売をはじめ、航空機・燃料の調達、航空機整備等幅広い分野において連携を深めています。



5 サイバーセキュリティ対策

日々拡大・高度化するサイバー攻撃に対して、ハード（仕組み）・ソフト（人）の両面での能動的な対応に努め、お客様に安心してご利用いただけるよう取り組んでいます。

■航空機材の更新に向けて

安全性はもとより、商品競争力の強化と安定的な輸送体制の構築を通じ、利便性と快適性の向上を追求すると共に、低燃費機材の導入によるCO₂排出削減にも積極的に取り組んでいます。環境への配慮と成長の両立を実現する新機材導入の準備を進めています。



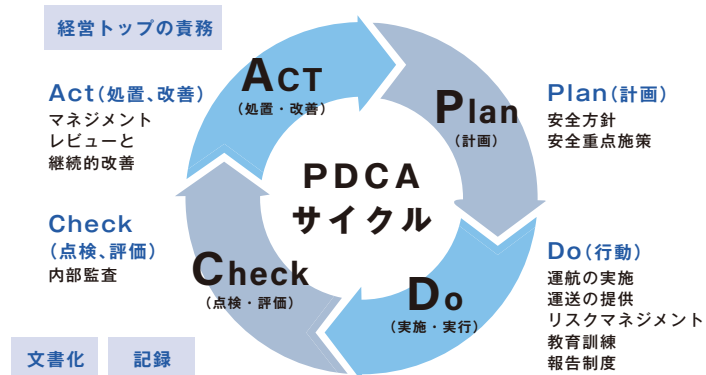


役割 ● 機能

AIRDOでは、航空法に基づき「安全管理規程」を設定し、安全管理の方針・体制・実施方法を定めています。

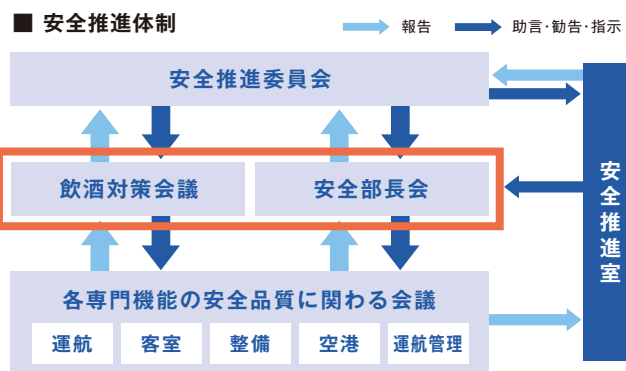
そして、この安全管理の方針に従い、会社として安全の管理を組織的に取り組む「安全管理システム(SMS)」を構築しています。AIRDOのSMSとは、安全方針に基づき整えられた体制による運航を実施し、問題の把握と結果の評価から必要な対策を講じて改善するという、安全性の維持・向上を図る一連の活動を継続的に実施する仕組み(PDCAサイクル)です。

■ 安全管理システム(SMS)



このSMSを効果的に運用するために、生産部門を運航・客室・整備・空港・運航管理の5つの専門機能に区分し、機能ごとに安全品質に関わる会議を設定して、安全情報の収集・分析・対応を行っています。

また、専門機能会議の上部組織として、組織横断的な課題に対応するための「安全部長会」と飲酒対策全般を総括する「飲酒対策会議」を設置、更に安全の最高決議機関として社長を委員長とした「安全推進委員会」を置き、安全方針・安全目標の策定、リスクの高い事象に対する対策の決定、SMSの実施状況の確認等を行い、全社的な安全推進体制を構築しています。



取り組み ● 業務内容

■ 安全啓発活動

① 安全巡回・ダイレクトトーク

定期的に経営層が職場を視察し、社員との双方向のコミュニケーションを行い、安全に対する責務を全社員で共有しています。

② 安全啓発施設の見学・御巣鷹慰霊訪問

社外の安全施設の見学および御巣鷹慰霊訪問を通じた「感じ・考え・学ぶ」プログラムであり、社員が安全を絶対的使命として追求する意味を考える機会を設けています。



③ Safety+ (プラス) フォーラム

安全強化期間(毎年9月～10月)にリージョナルプラスグループとして、社員による安全発表と外部講師による講演会を開催し、社員の安全文化の醸成と意識の向上を図っています。



④ 客室部主催出前講座

社員の意識強化施策として、客室部による「社員としての心構え～緊急事態に備えて」をテーマとした講座(出前講座)を各職場にて開催しています。また今年度からは、機内を再現した訓練施設で、より実践的な講座を新規に導入しました。



⑤ 安全情報誌の発行

グループ安全情報誌「SAFETY+」を定期的に発行し、航空安全の確保に資する情報提供と共有を行っています。

⑥ 定期意見交換会

安全統括管理者とマネジメント層による定期的な意見交換会を実施、継続的な意識向上に努めています。

⑦ 安全意識アンケート

年1回、全社員に対してアンケートを行い、社員の安全意識と安全文化の醸成状況を把握し、更なる安全啓発活動に繋げています。

⑧ 階層別の安全研修

心理的安全性をはじめ安全全般の理解を深めるため階層別の研修を実施しています。

■ 安全向上への強化項目

① 基準・手順の遵守および基本動作の徹底

基準・手順の遵守については、各組織で日常的に徹底していることに加え、基本動作の徹底を行っています。基本を形として捉えるだけではなく、その意識や背景、それに関わる過去の失敗事例等の教育を行い、確実な定着を図っています。

② 変更管理の確実な実施による未然防止の強化

事業計画や業務運用等の変更に際しては「変更管理」という仕組みを活用し、安全運航を阻害するリスクの洗い出しと評価を行い、必要な対策をすることでリスクを許容範囲内に収め、不安全事象の未然防止に努めています。

③ 再発防止対策の形骸化防止

AIRDOにおいて過去に発生した不安全事象に対し再発防止策を講じていますが、年月が経つにつれ、環境変化や従業員の意識の変化等で形骸化してくる可能性があるため、改めて再発防止策の有効性についてレビューを行い、必要な対応を進めています。

④ 現場情報の活用

現場部門では、安全面・環境面等の課題を的確かつ速やかに発信することに加え、経営層並びに部門長は対話活動や日常的コミュニケーションを行っています。職場の課題に対して幅広い視点で検討し、迅速に対処しています。

⑤ 安全監査

内部安全監査では、年度の監査方針、監査重点項目に沿った監査を実施することで、規程・基準の遵守状況や安全管理体制等の問題の把握と改善を行っています。

2026年度 安全方針	
いかなる環境下においても安全を堅持する	
安全重点施策	
■ 基準・手順の遵守および基本動作の徹底	
■ アルコール検査に対する意識強化	
■ リスクマネジメントの強化	
■ 安全文化の醸成と定着	
安全指標	安全目標値
① 事故・重大インシデント	0件
② アルコール検査での検知・失念	0件
③ ヒューマンエラーに起因する安全上のトラブル報告件数	2,800件以下 / 1万便
④ 機体動揺に起因する負傷報告件数	0件
⑤ 落下物報告件数 Category I	0.40件以下 / 1万便
Category II	34.40件以下 / 1万便
⑥ 無申告危険物輸送による通報報告件数	1.40件以下 / 1万便

安全推進ポスター

■ 2025年度実績

航空事故・重大インシデント*……0件

*AIRDOは設立以来、航空事故や重大インシデントの発生はありません



役割 ● 機能

私たちの最大の役割は、お客様を目的地まで安全にお届けすることです。運航本部では、会社の経営方針・安全方針のもと、航空機の運航に関する全般的な業務を担い、日々の安全運航を支えています。

安全を第一とし、最良かつ最適な運航を追求すると共に、定時運航に努め、快適なフライトを提供できるよう積極的に業務を遂行しています。

取り組み ● 業務内容

運航乗務員は様々な訓練や技量管理を通じて、安全かつ快適なフライトを実現しています。地上スタッフは、その基盤となる運航基準や訓練・審査方針の策定、訓練計画の立案等を実施しています。また中長期的な運航乗務員の採用・育成・稼働計画の策定に至るまで多岐にわたり、これらを総合的にマネジメントすることで運航乗務員の安定稼働を確保し、日々の安全運航の徹底とそのサポートを行っています。

■運航乗務員

安全運航を維持するため、運航乗務員の日常的な技量管理、各種任用訓練や定期訓練を実施することで、安定した運航体制を確保する仕組みを構築しています。

運航乗務員訓練生として入社した後は、運航のサポート業務や、旅客部門での業務を経験した後、副操縦士任用訓練（指定養成訓練課程）を受け、厳しい訓練と審査を経て副操縦士となります。その後、十分なフライト経験を積み、必要な知識を習得するための訓練を受け、航空局および社内の審査を経て、機長へと昇格します。

機長昇格までの過程を支援するため、副操縦士の日常技量管理制度の整備に加え、AIRDOの機長に求められる要件が身につくよう、機長昇格訓練投入に先立ち、適切なタイミングでの教育や技量の確認等、様々な取り組みを進めています。



■地上スタッフ

地上スタッフが担う業務として、安全運航の確保・推進のための運航品質の維持・管理、航空機を運航するために必要な技術や法律、航空機メーカーの基準に対応した社内規程の設定や、運航乗務員の資格や健康管理、勤務スケジュール管理等があります。

これらを担当する地上スタッフに対しては、本部内各部へ配属後の社内教育やOJTのほか、各種外部セミナー等の受講および参加を推進することで、地上スタッフの専門性を重視した育成を進めています。



① 新乗務員管理システムの導入

昨年度より導入準備を進めていた新乗務員管理システムを2026年7月に導入しました。本システムでは、スケジュール作成から、勤務管理までを一元管理することが可能となり、業務効率化が図られました。

② 新たな訓練シラバスの作成

従来の採用ルートにとどまらず、より幅広い層からの人財確保を実現するため、新たな訓練のシラバスを作成しました。これにより採用の選択肢を広げるとともに、乗員稼働確保の強化に繋がります。



③ 自社養成制度の安定運用に向けた調整の継続

北海道、全日本空輸株式会社様、株式会社三井住友銀行様、東京海上日動火災保険株式会社様、および北海道内の各大学、高等専門学校と協力し、パイロットの自社養成制度を開始しています。2期生が2026年4月に入社し、海外訓練に向けた準備を進めています。

④ 運航乗務員の更なる居住地拡大

2023年12月より開始した運航乗務員の居住地拡大制度について、札幌・千歳・旭川近郊に加え、帯広近郊も新たに居住可能な範囲として対象を拡充しました。運航乗務員のワークライフバランスを重視し、柔軟な働き方を可能にする制度を今後も継続することで、エンゲージメントの向上を目指します。

⑤ 労働環境改善とサポート体制の構築

パイロットピアサポート※体制の導入をはじめ、労働環境の改善とサポート体制の構築に取り組んでいます。

※ピアサポートとは、現場レベルでの細かな内容を理解する相談者と同じ職に就く者（ピア）が、相談者の悩みを傾聴する体制を整えることで、相談者が心を開いて相談しやすい環境を作るものであり、相談者は秘密性が守られた環境でピアによる相談を受けることができます。

⑥ ソラシドエアとの協業による業務連携

運航に関わるノウハウの共有、訓練教材の共同作成・共同使用、一部訓練教官の兼務出向による教官体制構築等、サポート機能の業務連携を推進しています。

⑦ 運航本部Instagramの開設

AIRDO運航本部の活動を社内外に広く発信することを目的に、2025年10月に運航本部のInstagramアカウントを開設しました。



整備

整備事業室（リージョナルプラスウイングス）



2024年10月より、グループ会社であるソラシドエアと共に株式会社リージョナルプラスウイングス(以下: RPW)へ整備機能を集約し、整備業務の管理を委託※しています。経営資源の効率化と整備品質の向上を目的として両社の知見を融合させており、その効果は財務面にも表れています。この集約を好機とし、絶えず効果の創出に挑戦しています。

※AIRDOにおいて行っていた整備作業のほか、整備に関する品質管理、技術管理、生産管理等の管理業務までを一括して委託する仕組みをいいます。これに基づきRPWが、AIRDOに代わって整備プログラムや整備の基準を整備マニュアルとして自ら定め整備全般に関わる業務を実施しています。委託元であるAIRDOは、RPWが行う整備作業・整備管理を包括的に委託管理(整備監理)することを通じて、航空運送事業者としての責務を果たします。

役割 ● 機能

日々の安全運航の堅持とお客様に安心してご利用いただける高品質な機材を提供し、運航ダイヤの維持と定時性を確保するため、整備作業品質・整備方式に関する方針策定や日常の運航整備作業、運航機の不具合修復、機材品質の維持向上を行っています。

また、絶対的な使命である安全運航の堅持に向け、整備従事者※および整備スタッフに対する人財育成、競争力のある効率的な整備体制を確立するための組織運営や人員配置等、中長期的な視点をもって強化、推進に努めています。



※整備従事者

整備業務は高度で専門的な知識や能力、経験を要することから、作業に携わるためには資格が必要です。入社して社内作業資格を得た後、経験を積みながら、より高度な整備業務が可能となる国家資格「一等航空運航整備士」「一等航空整備士」の取得を目指します。国家資格の取得後、社内訓練や実務経験、審査の合格により「確認主任者」資格が付与されます。また、すべての整備従事者は、知識の維持・向上を図るため、それぞれが持つ資格(確認主任者、認定作業員、領収検査員等)に応じた定期訓練を2年ごとに実施し、航空法や社内規程の確認、品質管理や領収検査に関する事項、近年発生した不具合事象の振り返り等を行っています。

「安全堅持を最優先に、仲間との信頼関係のもと、お客様・エアライングループ・社会への約束を堅守し、一人ひとりが輝き、求められる整備部門であり続ける」を基本方針に掲げています

取り組み ● 業務内容

リージョナルプラスグループを牽引する存在として、グループ方針の実現に向けて盤石な事業基盤の構築と新たな価値創造に取り組んでいます。この取り組みは【地盤】【貢献】【成長】を軸に整備部門一丸となって遂行し、持続的成長につなげます。

【地盤】 不断の改善、確固たる地盤のもと、魅力ある組織への追求
【貢献】 リージョナルプラスグループの安全堅守、コスト管理の要となる存在へ
【成長】 シナジー効果の拡大、活用、そして挑戦への準備

①【地盤】 不断の改善、確固たる地盤のもと、魅力ある組織への追求

活発なコミュニケーションと改善活動を通して、人財の確保・育成・定着に向けた魅力ある組織づくりを推し進めます。また、国の制度改正に迅速に適応し、整備士の早期戦力化を図っています。

●整備士資格の共通化と業務範囲拡大

2025年6月の制度改正に合わせ、機種別の整備士資格を一部共通化しました。今後は本制度を活用し、業務範囲拡大に向けた準備を進めます。

●整備士の採用競争力強化に向けた取り組みの推進

2026年8月(北海道)・9月(東京)に航空機整備の「仕事体験」を、昨年度の規模から拡大して開催しました。過去の機材不具合対応や整備計画作成の疑似体験を通じ、学生の皆様に航空機整備のリアルな魅力を発信しています。



②【貢献】 リージョナルプラスグループの安全堅守、コスト管理の要となる存在へ

安全かつ安定した機材提供を重点項目とし、以下の目標を掲げて品質向上に取り組んでいます。

- 安全に直結する機材不具合・作業品質不具合の防止
- 機材不具合の未然防止・再発防止による運航品質の向上
- アルコール検知事象ゼロの継続 ●安全意識向上の取り組みの強化



③【成長】 シナジー効果の拡大、活用、そして挑戦への準備

両社が培ってきた知識・経験を継承しつつ、更なる生産性向上に向けてDXの推進、ESG活動に着手しています。

●AI・デジタル技術の活用による整備関連業務の生産性向上と標準化

個人の経験に依存しやすい整備業務において、機材不具合や整備作業データの収集・活用にデジタル技術を導入し、業務の効率化を推進しています。イレギュラー時にも迅速に対応がとれるよう、デジタル技術を取り入れた仕組みづくり(DX)により業務の標準化を図っています。

●持続可能な社会の実現に向けたCO₂削減

環境配慮とコスト削減のため、2026年2月に羽田空港内の移動車両としてEV(電気自動車)2台を導入しました。1台あたり月間約202kgのCO₂排出量の抑制につなげています。



役割 ● 機能

ご利用いただくお客様に直接サービスをご提供する空港・客室業務に加え、航空保安の徹底およびフロントライン業務に関する規程や基準の設定業務等を担っています。また、安全に運航するために運航ダイヤのコントロールやフライトプランの作成、航空機が離陸して着陸するまで地上から運航を支援する等、お客様にとってより良いサービスと快適な空の旅をご提供すべく、各部署が連携し業務を行っています。

取り組み ● 業務内容

ご利用いただくお客様に安全・安心な空の旅をお届けするために、以下のような教育や訓練等を定期的実施しています。また、空港や機内においては、北海道にこだわったサービスやホスピタリティを追求し続けています。

■客室乗務員

客室乗務員には、お客様に安全かつ快適な空の旅をご提供する使命があります。機内においては安全を絶対的の使命とする保安要員としての役割があり、入社後約3カ月にわたり必要な各種訓練と社内審査を受け、合格した後に乗務資格を得ることができます。

また、資格取得後も定期訓練と審査が毎年義務付けられ、技術維持と向上のため不断努力が求められます。

お客様に安心してご利用いただけるよう、一人ひとりが安全に対する意識を高めながら自覚と責任を持って、日々のフライトに臨んでいます。



■空港係員

お客様が搭乗する際、空港で最初に出会うことになるのが空港係員（グラウンドスタッフ）です。空港係員はお客様に安心してご搭乗いただけるよう、安全運航と定時性を常に意識し、日々たゆまぬ努力を重ねています。

配属後約3カ月間にわたり、航空基礎、危険物、接客サービス等様々な知識を習得すると共に、航空券の予約発券、搭乗手続き、搭乗口での案内業務、アナウンス、車いすの操作方法等、多岐にわたるスキルを身に付けます。その後も複数の定期訓練が毎年義務付けられており、お客様の安全・安心を守るための技術向上に努めています。



■地上運航従事者

運航管理業務では、運航乗務員と連携して航空機の運航方針を決め、安全に目的地に到着するまでの支援を行うことから、専門的知識や技能、資格が必要です。「運航管理者」の社内資格は、まず、「運航支援者」として経験を積んだ後、国家試験に合格し、更に社内訓練や審査を経て資格発令されます。発令された後も、当該資格に必要な知識および技能水準の確認を目的として、毎年、定期資格審査を実施し、運航管理業務に必要な知識および技術が維持されている事を確認しています。



■空港・機内サービス

AIRDOカウンターでは、ご出発前のお客様に旅の始まりから楽しんでいただけるよう、季節に合わせた温かなおもてなしを大切にしています。羽田空港ではソラシドエアと共同で、お客様の願い事を応援する企画として、七夕の短冊飾りや手作りの絵馬を設置した心願成就イベントを実施しています。新千歳空港では季節ごとの装飾に加え、ハロウィンやクリスマスといった節目の時期にペア・ドゥが駆けつけ、お菓子のプレゼントや記念撮影を通じてお客様とのふれあいのひとときをお届けしています。

また、機内では安全啓発や北海道の魅力発信のため、客室乗務員手作りの「キッズシート（日本語・英語版）」や、北海道観光マスター・北海道フードマイスター有資格者が考案した「北海道クイズ」をご用意しています。初日の出やお正月フライトでは手作りのウェルカムボードで特別な旅を演出しています。お客様の旅が素晴らしい思い出の1ページとなるよう、各部署が心を込めて取り組んでいます。



■バリアフリー教育の強化

AIRDOでは、お手伝いが必要なお客様に快適にご利用いただけるよう、バリアフリー教育に力を入れています。年に一度の全空港係員を対象としたバリアフリー教育のほか、お客様と接する部門においては、始業時の朝礼で手話を用いた挨拶の唱和等により対応力の強化に取り組んでいます。



■北海道ホスピタリティ

快適にAIRDO便をご利用いただけるようサービス介助士、また、北海道をよく知り、学び、お客様とのコミュニケーションを大切にする一助として北海道観光マスター・北海道フードマイスターの資格取得を推進しています。お客様と直に接する運送本部には資格保有者が多数在籍しており、保有者は資格ごとのバッジ※1を付けて業務しています。



■協業施策

2022年10月以降、ソラシドエアとの協業の最大効果を得るべく、羽田空港に勤務する空港係員および地上運航従事者においては両社の業務資格を取得することで相互理解を深めています。

2025年10月には、両社の空港係員が互いの接客スキルを披露するコンテスト「New Smile Award」※2を、初の合同開催となった2024年度に引き続き開催しました。この取り組みは、互いの品質や知見の向上、グループ全体の結束力・総合力を強化させることに繋がっています。

サービス面では、2023年10月にはリージョナルプラスウイングスの設立1周年を記念した「AIRDO×ソラシドエア馬油セット」の機内販売、2024年10月には北海道と南九州のご当地ドリンク「ヨーグルツベ」を機内サービスドリンクとしてご提供する等、両社が連携し各地域の魅力発信にも積極的に取り組んでいます。また2025年10月には設立3周年を記念して、初めて一から共同で企画した新商品「機内サービス風おもてなしペアカップ」※3を機内販売しました。

これからも両社の連携を更に深化させ強固なものとするべく、運送本部一体となり協業に取り組んでいきます。



※2

※3

マーケティング・営業

｜営業部

多様化するニーズに合わせ、各種運賃やサービス、
情報を的確かつタイムリーにお届けし、
お客様に満足いただける「空の旅」を提供します

役割 ● 機能

市場・顧客動向の把握・分析等のマーケティングリサーチをベースに運賃の設定・運用、および利用促進を図る販売施策の企画、更には環境変化に応じた営業戦略の立案・実行に至るまで、幅広いマーケティング&セールス活動を展開しています。

取り組み ● 業務内容

■マーケティング&セールス

多様なお客様のご利用シーンやニーズに応じた最適な運賃・サービスを提供し、顧客満足度の向上に取り組んでいます。具体的には、早期予約や需要動向に応じた運賃プランの設定・販売を行い、新規需要の喚起・利用促進を図りました。また、北海道の魅力を前面に出した情報発信やプロモーションを展開し、幅広い航空需要の取り込みを行っています。今後もお客様満足度の向上につながる施策を推進し、将来にわたる安定的な収入基盤を構築することで、持続的に支持される航空会社を目指していきます。

■広告・宣伝

交通広告やWeb広告を活用し、企業コラボレーション企画やお得なセール運賃情報の発信をはじめ、認知拡大に向けたプロモーションを積極的に展開しています。また、機内誌「rapora」やPodcast「おんえあどう」、公式SNSといった多様なメディアを通じ、就航地の魅力や自社の取り組みに加え、公式マスコットキャラクターベア・ドウを活用した発信等、幅広い層に向けた魅力的なコンテンツを提供しています。今後も「北海道の翼」として、北海道およびAIRDOの魅力を広く社会へ届けると共に、ブランド価値の向上に努めていきます。



■法人販売

法人専用Web予約サービス「AIRDO Biz」を通じて、企業における出張の利便性向上とコスト適正化を推進しています。北海道内にとどまらず、首都圏をはじめとする各地の就航地企業へ積極的な営業展開を行うと共に、ビジネス利用者のニーズに応じた柔軟なサービス提供に努めた結果、契約企業数は1,800社を突破しました。今後も更なる利便性の向上と利用基盤の拡大を図り、企業の出張やビジネス活動を幅広く支えるパートナーを目指していきます。



■AIRDO New Standard (新たな旅客サービスの提供)

お客様の体験価値(CX)を更に向上させるため、航空券の予約・購入からご搭乗に至るまでのサービスおよびシステムを刷新しました。新たな旅客サービスシステムへの移行に伴い、すべてのお客様にシームレスで魅力あるサービスを提供すると共に、一人ひとりの価値観やライフスタイルの

変化に寄り添った取り組みを推進していきます。また、この刷新にあわせて運賃体系をシンプルかつ分かりやすく再構築し、多様なご利用スタイルに対応した新たな運賃ラインナップを導入しました。今後も、より便利で快適なAIRDOでの空の旅をお届けし、持続的なファン層の拡大と企業価値の向上に努めていきます。



■北海道日本ハムファイターズへの協賛

2025年シーズンに開始した北海道日本ハムファイターズとのパートナーシップ契約は、2年目を迎えました。ファイターズの勝利翌日にAIRDO航空券をご購入いただいたお客様への「ボーナスポイントプレゼントキャンペーン」や、オリジナルユニフォームを着用したマスコットベア・ドウの機内販売、試合開催日における空港スタッフ・客室乗務員等によるオリジナルユニフォームの着用等、前年に続き多様な共同施策を展開し、お客様と共にチームを応援しています。今後も、北海道に根差す両社ならではのシナジーを活かし、地域社会の活性化やファン体験の価値向上につながる取り組みを推進していきます。



■チャーターフライトの実施

2025年9月に実施した「体験学習フライト(新千歳発着)」では、道内の高校生約130名にご搭乗いただきました。次世代の航空人材育成の一環として、整備士・客室乗務員・空港係員による職種紹介や学習会を実施し、航空業界への理解を深める機会を提供しました。また、2026年1月1日には、新千歳空港発着として国内初となる「初日の出遊覧フライト」をはじめ、「元旦 富士山初日の出フライト(羽田発着)」や「函館―鹿児島チャーター」等、同月に計4件のチャーターフライトを運航しました。いずれのフライトも特別感のある体験としてお客様から大変ご好評をいただきました。



CX・CS

｜CX推進部

私たちのありたい姿「ブランドビジョン」の実現に向けて、お客様との約束である「ブランドコンセプト」を追求しながら、「北海道の翼」としての使命を果たしていきます

役割 ● 機能

CX(Customer Experience:顧客体験)を基軸に、あらゆるシーンにおいてAIRDOブランド*の価値をお届けし、北海道の魅力を日本中、そして世界中に伝え「北海道の翼」としての使命を果たすことで、お客様との関係性の維持・拡大を推進するためのブランド・CX戦略を担っています。

また、お客様から寄せられる「ご意見・ご要望」「お叱り」「お褒めの言葉」をサービス改善に活かすと共に、CS行動指針*の浸透を図ることで社員のCSマインドの醸成に取り組んでいます。

※AIRDOブランド・CS行動指針は、P.8「ブランドメッセージ」・「CS行動指針」をご覧ください。

取り組み ● 業務内容

■ブランド戦略

全社員がAIRDOブランドの体現者となるため、方向性や価値観を共有するツールとして「AIRDO BRAND BOOK(世界観・概念)」「AIRDO Customer Experience Book(顧客体験方針)」「AIRDO STYLE BOOK(身だしなみ基準)」を定め、ブランドメッセージを基軸とした各種施策を推進しています。また、「AIRDO Concept movie ～TSUNAGU～」の制作やテレビCMを活用したプロモーション活動に加え、認知度調査等を継続的に実施し、その結果に基づく効果的な施策の展開に取り組んでいます。今後も「道外やアジアでも“AIRDO＝北海道”を連想させる存在」を目指し、国内外を視野に入れた新たなブランディングコンテンツの開発・展開を通じて、AIRDOブランドの更なる価値向上を図っていきます。

■CX戦略

AIRDOブランドの価値をお客様へ貫けてお届けするため、利用前から利用後までの一連の顧客体験を13シーンに分類し、CXの仕組みを活用した商品・サービスの改善・向上に取り組んでいます。定期的にお客様評価を測定する「CX Survey」を起点として、経営層を含む全社的なPDCAサイクルを展開すると共に、その高度化を進めています。調査結果に加え、お客様から寄せられる「ご意見・ご要望」「お叱り」「お褒めの言葉」を速やかに分析し、関連部署へ展開することで、改善課題を早期に特定し、迅速な改善につなげています。また、「お客様の声」の分析結果と、CX Surveyによる「お客様評価」の測定結果を連動させ、多角的かつ部門横断的な視点から新たな課題や潜在的なニーズを抽出しています。お客様のニーズや期待の変



▲「AIRDO Concept movie」はこちら

化を的確かつタイムリーに捉え、全社一体となって、より良い顧客体験の創出を推進していきます。

■CS向上の推進

社員一人ひとりがお客様満足の向上に取り組む際の道しるべとなるものが「CS行動指針」です。「CS行動指針」は、「安全行動指針」と共に「企業理念」を具現化し、事業運営に反映させていくための両輪となる指針です。AIRDOではこの「CS行動指針」に基づき全社一体となってCS向上に取り組んでいます。また今後のCS活動においてソラシドエアとの協業を推進し、CS活動を更に活性化していきます。

●カスタマーハラスメントへの取り組み

安全で質の高いサービスの提供を推進すべく、「カスタマーハラスメント対応規程」並びに「カスタマーハラスメント対応マニュアル」を制定し、社員が安心して働ける環境づくりを進めています。



●「CS表彰 つなぐアワード～DO for Smile+～」

「CS行動指針」に基づき積極的に行動した社員・チーム・組織を年1回表彰する制度です。「お客様から寄せられた声」「社員同士の気づき」「部門単位でのCS活動」を対象とし、ソラシドエアおよびリージョナルプラスウイングスと3社合同で開催し、全社員の投票によって表彰を行っています。



商品・サービス

事業開発部

「北海道の翼」のアセットを活用した旅客輸送以外の収入拡大に取り組んでいます

役割 ● 機能

事業開発および商品戦略に係る統括部署として、「公式オンラインショップ」「機内販売・サービス」「道産空輸AIRDOダイレクト便(産直品流通支援)」の各事業を主管すると共に、新事業・新商品の開発を担いながら、旅客輸送以外の収入拡大に向けた取り組みを推し進めています。

取り組み ● 業務内容

■公式オンラインショップ(AIRDO Online Marché)の運営

「AIRDO Online Marché」では、商品を通じてAIRDOならではの「北海道体験」をご提供すべく運営しています。マスコットキャラクター「ベア・ドウ」をデザインしたオリジナル商品や、就航地域ならではの旬の特産品、直近ではTVアニメ『ゴールデンカムイ』コラボ商品が大好評をいただきました。

2026年9月にはWeb会員サービス「My AIRDO」との連携により、お買い物でのマイル利用や獲得が可能となりました。利便性と魅力が高まった「AIRDO Online Marché」にぜひ一度お立ち寄りください。

■機内販売・サービス

機内では、北海道にこだわった各種ドリンクサービス、商品販売を行っています。なかでも北見地方産のたまねぎを使用したオニオンスープや、道産ほたての香りと旨みたっぷりのほたてスープは機内でご賞味いただけるほか、お土産・ご自宅用としてオリジナルパッケージの商品をご購入いただけます。

また、「ベア・ドウ」が北海道日本ハムファイターズのユニフォームを着用した「ファイターズベア・ドウ」は、2025年のヒット商品となりました。期間限定で登場する各種コラボ商品に今年もご期待ください。

■道産空輸 AIRDOダイレクト便

自社運航便による産地直送サービス「道産空輸」では、空輸による高付加価値化を図りながら、道産品のプロモーションを推進しています。2025年に受託した北海道による「航空貨物輸送網強化事業」の実施を契機に、都内小売店での流通販売を強化しており、航空会社のアセットを活用した北海道産品の「取引仲介」「流通支援」サービスの展開を図っているところです。

加えて、百貨店主催の北海道物産展への出店や、ホテルビュッフェ企画の協力・食材提供を通じた道外での企業イメージ定着の取り組みにも努めています。



機内でのドリンクサービスの様子



物産展で販売した道産品・グッズの数々

地域

北海道ブランド推進部

地域・自治体との信頼関係を深め、「北海道の翼」としての基盤を確固たるものにし、道内外への北海道ブランドの浸透と地域課題の解決に寄与していきます

役割 ● 機能

2026年4月新設の北海道ブランド推進部は、道内外の就航地域における自治体や企業との関係強化や、事業を通じた社会的サステナビリティ活動を推進しています。また、広報活動と連携しながら、これらの取り組みや北海道の魅力を広く社会に発信しています。

取り組み ● 業務内容

■地域連携

「北海道の翼として地域社会の発展に貢献する」という企業理念に基づき、北海道内外の就航関係先とのリレーション強化を図っています。その一環として、就航地の各自治体を定期的に訪問し、自治体が抱える地域課題を伺い、その課題解決に向けた連携事業の提案・協働を推進しています。具体的な事例として、女満別空港の所在自治体である大空町とは、2023年3月に「包括連携協定」を締結しました。現在は、オホーツクエリアの観光振興や魅力発信、同空港の利用促進に向けた取り組み等を協働で進めており、他の就航自治体とも同様に連携を深めています。これらの活動を通じて、地域における「ヒト・モノ・コト」の新たな動きを創出・喚起し、地域社会の活性化に寄与していきます。



©Pokémon/Nintendo/CF/GF

■サステナビリティ推進

サステナビリティ活動の推進にあたり、北海道をはじめとする地域社会との連携を図りながら、「北海道の翼」としての強みやリソースを活かした社会的課題の解決に取り組んでいます。

●「北海道」との連携・協力

- ◆「連携と協力に関する協定(包括連携協定)」(2011年11月28日締結)
- ◆「災害時における航空機による緊急輸送業務の協力に関する協定」(2014年1月29日締結)

「地域社会に貢献する」

地域社会の維持発展に向け、将来を担う「人」を大切にする視点を持った持続的な活動に取り組んでいます。北海道教育厅との協

働による「AIRDO航空教室」では、道内小・中学校の「総合的な学習の時間」を通じて、航空の仕事に向き合う姿勢やコミュニケーションの重要性を伝えており、これまでの受講児童・生徒数は32,000名を超えています。更に、難病と闘う子どもたちの自然体験施設「そらぶちキッズキャンプ(滝川市)」や「明日のアスリート研究所(アスアスラボ)」への特別協賛等を通じ、今後も北海道の未来を支える次世代育成に貢献していきます。

また、災害復興支援として、直近では「令和8年熊本地震」において、熊本県に対し会社および社員有志による義援金を寄付しました。



2026年度 航空教室の様子

「自然・環境を大切にする」

2008年より、北海道の豊かな環境を保全するため、北海道の「ほっかいどう企業の森林づくり」と連携し、道内の就航6地域(新千歳、旭川、函館、女満別、帯広、釧路)において植樹・育樹活動を行っています。また、2006年の女満別ー羽田線就航を機に、知床財団との連携による世界自然遺産・知床の保全活動を開始しました。人とヒグマが安心して暮らせる知床を目指す「キムンカムイ・プロジェクト」を共同で実施しており、当時制作した教育教材「トランクキット」は内容をリニューアルし、今でも大切に活用されています。更に、共同制作した啓発絵本は、2025年に北海道テレビ放送株式会社(HTB)様のご協力のもと「読み聞かせ動画」として生まれ変わり、現在は機内をはじめ各所で放映されています。

今後もオホーツク・知床の自然保全に向けた取り組みを継続的に展開していきます。



教育教材「トランクキット」(2026年リニューアル)

人財・組織

人事部

プロフェッショナルな人財の確保を図ると共に、社員の成長を支援し、エンゲージメントに資する環境整備を行ってまいります

役割 ● 機能

社員の採用や育成、給与体系を含めた処遇の検討、人事諸制度全般に関する企画・運用のほか、福利厚生の実施等、全社員がやりがいを持って長く働き続けることのできる職場環境の整備が人事部の役割です。

また、会社の経営方針とビジョンの実現に向け、人事組織に関する基本的な方針と人財戦略の策定を行い、組織と人財の連携・強化を図ること、AIRDOの更なる発展的な成長を見据えた、強固な基盤を構築する役割を担っています。



取り組み ● 業務内容

人事部では、スピード感のある意思決定と効率的な組織運営、柔軟な働き方の推進や多様な人財の確保と育成に向けた取り組みを加速させています。国内航空業界においては、旅客需要が堅調に推移しており、この需要に対応するためのプロフェッショナルな人財の確保と育成に向け、対面コミュニケーションを重視した採用活動と社内研修を展開しています。また、前年に続き2年連続で健康経営優良法人2026※1(大規模法人部門)を取得し、働きやすい環境整備と社員の健康意識の醸成を引き続き推進すると共に、これまで行っていた社員満足度の調査に加え、2022年度からはエンゲージメント※2の指標も追加した意識調査を実施しており、社員のワークライフバランスとモチベーションの向上を目指しています。

※1 健康経営優良法人認定制度…特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業の法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関等から社会的な評価を受けることができる環境を整備することを目的に、日本健康会議が認定する顕彰制度

※2 エンゲージメント…社員の仕事に対する情熱やコミットメントの意識を示す指標

■2026年度(今後)の取り組み

- 2025年～2027年度中期経営方針において生産性の向上とエンゲージメントの向上を最重要テーマとして掲げ、人事諸制度の検討、設計を進めています。適材適所の人員配置や人事ローテーション、また人事考課制度の改善等制度面を整備・工夫することで、社員がより一体感を感じられる事業・組織運営を行います。
- 今後の事業展開等を見据えたプロフェッショナルな人財の確保に加え、社内研修の再構築を進めます。前年度に策定した人財育成方針(成長支援モデル)に基づき、自律的に更なる成長を求める社

員を強く後押しすることで、自ら考え行動できるチャレンジングな人財を育成します。

- 働き方改革への取り組みや健康経営の推進、また企業型確定拠出年金への加入促進や社内マネーセミナーの開催、福利厚生の拡充を図り、エンゲージメント向上に努めていきます。
- ソラシドエアとの共同持株会社設立に伴い、知見の共有や業務の協業化を進め、生産性向上に資する施策を検討・検証のうえ、それを具現化します。



学生向け仕事体験での業務説明



新入社員研修



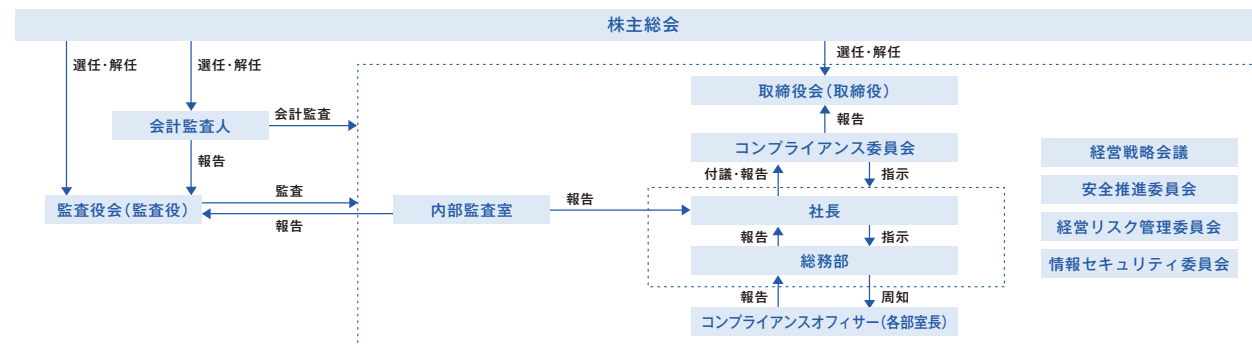
屋外型フィールドワーク研修

コーポレートガバナンス

公正な判断や健全な経営を行い、持続的な企業価値向上を目指します

運営体制

■コーポレートガバナンス体制



当社は、会社法上の機関設計として監査役会設置会社を選択し、監査役会が経営を監視し、会計監査人を含めた体制によりガバナンス強化を図っています。取締役会は、適切かつ迅速な意思決定ができるよう任期を1年とする取締役5名で構成されています。

■取締役会

定時取締役会は原則2カ月に1回、および定時株主総会後に開催しており、代表取締役社長が議長を務め、取締役5名の構成となっており、監査役1名、社外監査役2名が出席します。重要事項の決定および取締役の業務執行状況の監督を行うほか、法令または定款に定める事項を決議します。

■監査役会

監査役1名および社外監査役2名により構成される監査役会を設置しています。監査役は取締役会、経営戦略会議等の社内重要会議に出席すると共に、部室店単位の監査役監査を定期的に行い、取締役の業務執行について適正に監査を行っています。

■会計監査人

会計監査人設置会社であり、有限責任監査法人トーマツにより定期的に監査を受けています。

■内部監査

社長直属の内部監査室が内部監査を定期的 to 実施し、すべての業務が法令、定款および社内規定に準拠して適切かつ合理的に行われているか、また、コンプライアンス、リスク管理を含む内部管理体制が適切かつ有効であるかの検証を行い、会社の財産の保全並びに経営効率の向上に努めています。監査結果は速やかに社長に報告すると共に、必要に応じて取締役会に報告します。

■経営戦略会議

業務執行上の主要な案件について経営戦略会議において審議し意思決定します。経営戦略会議は基本毎月2回開催され、代表取締役社長が議長を務め、取締役、監査役、執行役員および代表取締役社長

が指名する者によって構成されています。審議内容は会社業務の統括、経営全般に関する方針および計画並びに業務執行に関する重要事項です。

■安全推進委員会

代表取締役社長、取締役、監査役、安全統括管理者、各生産部門の本部長等により構成され、安全に関わる重要事項の最高決議機関として、毎月1回開催しています。安全に関する重要事項の決定、安全目標・安全指標の進捗確認、マネジメントレビューの定期的な実施、組織を横断した情報の共有、安全管理システムの推進・改善等を行います。会議の席上では、報告があったハザード(不安全要素)への対応の討議・承認や、実施された安全対策の効果を確認します。併せて、安全推進委員会委員長および安全統括管理者が全社的な安全管理システム(SMS)の実施状況についてレビューを行い、必要に応じて改善のための助言、指示、勧告を行います。

■コンプライアンス委員会

コンプライアンス推進等に係る諮問委員会としてコンプライアンス推進方針・規程・マニュアル等の審議およびコンプライアンス体制の整備・改善状況の審議・検証等を行っています。

■情報セキュリティ委員会

情報セキュリティに関する最上位の意思決定機関として、企業情報の適切な運用、および情報システム障害やサイバー攻撃等への対応力強化に向けた方針・対策について立案・推進をしています。

■経営リスク管理委員会

事業活動において直面する経営上のリスクを適切に管理するため、リスクの洗い出し、評価および見出しを不断に行いながら、実効性のある経営リスク管理体制を確立し、これを審議しています。

コーポレートガバナンスを継続的に充実させることを目的に、東京証券取引所が策定した「コーポレート・ガバナンス・コード」を参考にし、更に活力ある企業風土を創造していきます。

2025年度の業績等の概要

①営業収入

マーケット動向の綿密な分析に基づき、競争力のある運賃設定と適切な座席管理を継続したことに加え、既存路線の増便や「DOセール」等の実施により、年間を通じて収益の最大化に努めました。その結果、過去最高を更新する**53,471百万円**(前期比 0.4%増)となりました。

②事業費

円安や物価上昇の影響を受け、航空機整備に関連する費用が増加したこと等により、**47,245百万円**(同 3.7%増)となりました。

③販売費および一般管理費

人件費等が増加したものの、各種経費の節減に努めた結果、**4,225百万円**(同4.0%減)となりました。

④ユニットコスト(1座席1キロ当たりの費用)

整備関連費用の増加等により、**11.94円**(前期11.26円)となりました。

⑤当期純利益

利息等の営業外損益に加え、業績予測の見直しにより繰延税金資産の一部を取崩したことにより、**1,203百万円**(前期比50.2%減)となりました。

損益計算書		単位: 百万円
営業収入		
事業費		
営業総利益(▲は損失)		
販売費および一般管理費		
営業利益(▲は損失)		
営業外収益		
営業外費用		
経常利益(▲は損失)		
特別利益		
特別損失		
税引前当期純利益(▲は損失)		
法人税、住民税および事業税		
法人税等調整額		
当期純利益(▲は損失)		
1株当たり当期純利益金額(円)		
1株当たり配当額(円)		
配当性向(%)		

貸借対照表		単位: 百万円
資産の部		
流動資産		
固定資産		
有形固定資産		
無形固定資産		
投資その他の資産		
負債の部		
流動負債		
固定負債		
純資産の部		
株主資本		
資本金		
資本剰余金		
繰越利益剰余金		
評価・換算差額等		
負債純資産合計		
1株当たり純資産額(円)		

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
27,313	41,509	51,556	53,270	53,471
28,819	35,219	43,398	45,566	47,245
▲1,505	6,290	8,157	7,704	6,226
3,229	3,673	4,683	4,400	4,225
▲4,735	2,616	3,473	3,303	2,001
538	214	182	182	224
496	447	414	319	429
▲4,692	2,383	3,241	3,167	1,796
921	—	249	409	0
88	265	73	6	6
▲3,860	2,117	3,417	3,569	1,789
17	18	18	18	18
▲1,510	▲2,123	▲18	1,134	567
▲2,367	4,222	3,416	2,416	1,203
▲55,177.40	90,805.11	69,183.91	48,964.65	22,877.98
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末	2025年度末
48,850	41,349	48,785	42,620	44,206
22,714	17,717	24,255	17,051	25,967
26,136	23,631	24,530	25,569	18,239
16,074	17,331	18,691	18,839	12,565
141	46	36	551	1,553
9,920	6,253	5,802	6,177	4,119
40,745	30,990	36,603	30,653	29,185
12,235	10,357	19,094	16,494	12,681
28,510	20,632	17,508	14,158	16,504
8,105	10,359	12,182	11,967	15,021
6,226	10,250	11,338	12,034	13,098
100	100	100	100	100
8,641	5,927	3,599	2,078	2,078
▲2,514	4,222	7,639	9,855	10,919
1,878	109	844	▲67	1,922
48,850	41,349	48,785	42,620	44,206
19,499.37	66,224.03	150,178.66	179,094.75	244,770.53

設備投資

2025年度においては、旅客サービスシステムの移行に伴うソフトウェアの取得等、総額1,077百万円の設備投資を実施しました。

原油価格変動リスクに係るヘッジについて

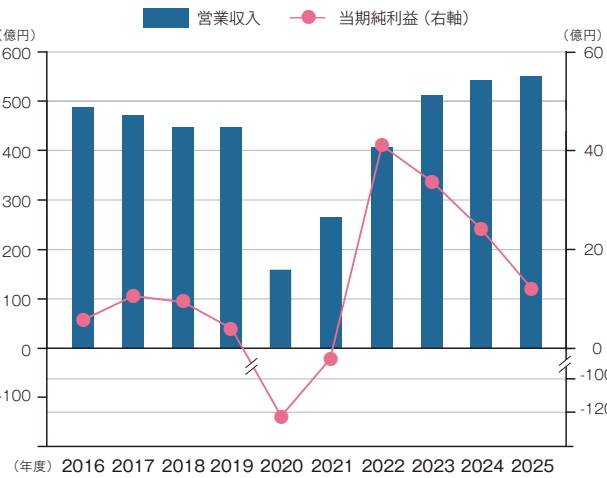
当社は、将来の原油価格変動を抑制し、コストを安定させることを目的として、デリバティブ取引を用いておりヘッジ会計を適用しています。対象期間の2年前からヘッジを実施していますが、リスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針です。

キャッシュ・フロー計算書

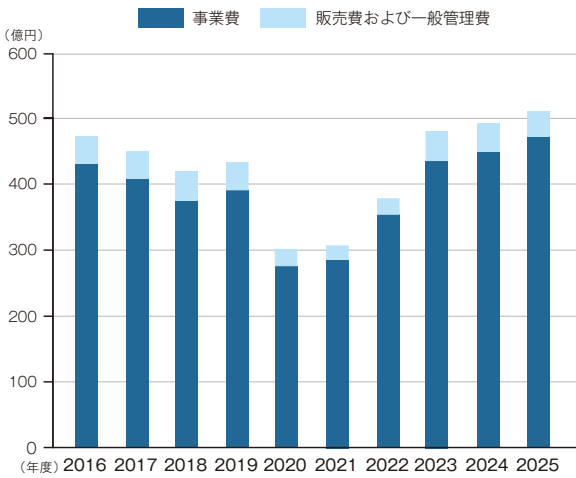
単位: 百万円

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
現金および現金同等物の期首残高				
15,809	16,378	13,517	18,237	12,338
営業活動によるキャッシュ・フロー				
▲ 1,004	1,549	11,716	7,358	8,591
投資活動によるキャッシュ・フロー				
▲ 2,362	▲ 346	▲ 822	▲ 10,960	▲ 4,266
財務活動によるキャッシュ・フロー				
3,752	▲ 4,359	▲ 6,218	▲ 2,296	2,046
その他				
184	296	43	▲ 1	▲ 7
現金および現金同等物の期末残高				
16,378	13,517	18,237	12,338	18,702

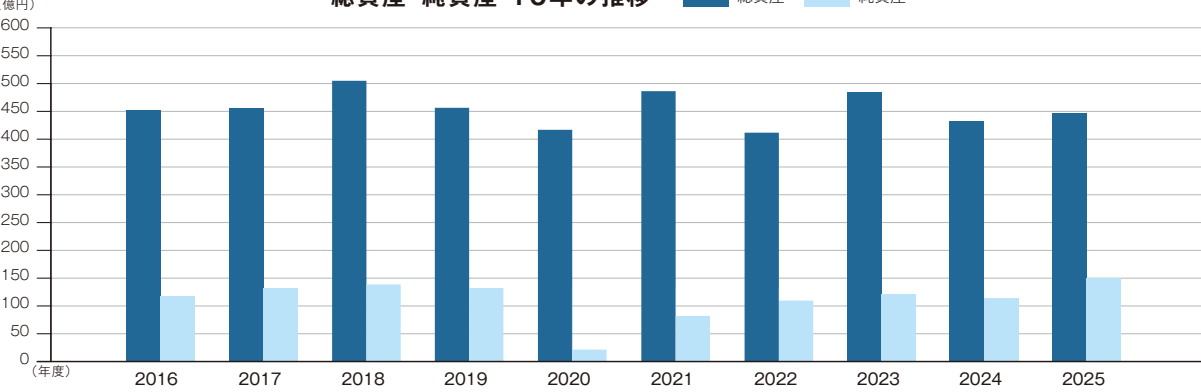
営業収入・当期純利益 10年の推移



事業費・販売費および一般管理費 10年の推移



総資産・純資産 10年の推移



企業情報

会社概要

商号	株式会社リージョナルプラスウイングス (英文名称 RegionalPlus Wings Corp.)
事業内容	・株式会社AIRDO、株式会社ソラシドエアの経営管理及びこれに付帯する業務 ・株式会社AIRDO、株式会社ソラシドエアの航空機整備業務の管理の受託及びこれに付帯する業務
本社所在地	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 第1旅客ターミナルビル
代表者の役職・氏名	代表取締役会長 鈴木 貴博 (現 株式会社AIRDO 代表取締役社長) 代表取締役社長 山岐 真作 (現 株式会社ソラシドエア 代表取締役社長)
設立日	2022年10月3日
資本金	1億円
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間

役員一覧

代表取締役会長	鈴木 貴博
代表取締役社長	山岐 真作
取締役	新川 新一
取締役	坂爪 浩
取締役	安廣 孝史
取締役	高橋 正尚
取締役	福田 健吉
取締役	植田 慎一郎
監査役	磯根 周二
監査役	平尾 清之
監査役	黒木 博
執行役員	近藤 允彦
執行役員	宮本 尊
執行役員	池田 直樹
執行役員	松本 恭典
執行役員	尾崎 充孝
執行役員	島崎 勝識

経営理念

グループ経営理念

地域をつなぐエアライングループとして、
安心な旅と新たな価値の提供を通じて、地域社会の発展に貢献します

安全

安全は経営の基盤であり、絶対的使命として追求します

地域

地域とともに成長するグループを目指し、地域社会の発展に貢献します

価値提供

グループ各社のブランドと航空ネットワークを活用し、新たな需要および価値を創出します

社会貢献

社会・環境課題へ取り組み、持続的な社会の実現に貢献します

経営基盤

グループの経営資源を最大限活用し、業務共通化や知見共有等を通じて経営基盤を強化します

社員・風土

グループ全社員が最大の財産であり、個性と多様性を認め合い、相互に信頼し磨き合える組織風土を作ります

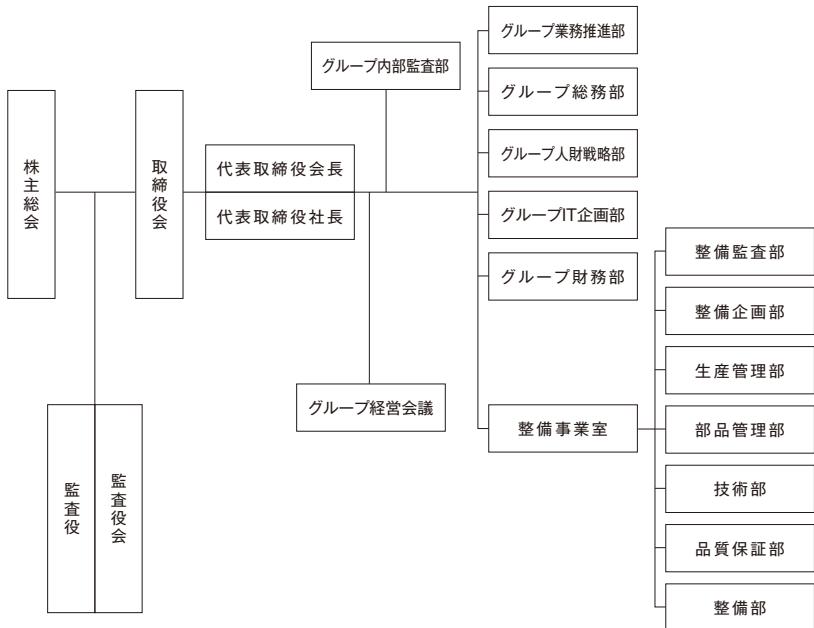
【グループロゴ】



【ロゴコンセプト】

2つの航空会社の協業によるシナジー効果の大きい可能性を「無限大∞」で表現したデザイン。北と南の空の軌跡が交わり、Rを囲みひろがっていく姿は、地域と共に持続的に成長・発展していくリージョナルプラスウイングスを象徴。その先に輝くプラスは、新しい価値の創出（プラス）と共に、未来へ飛躍する航空機も表現しています。カラーは、2社のブランドイメージカラーを融合し、共創のハーモニーを訴求。略称RegionalPlusを組み合わせたグループロゴの構成です。

組織図



グループ会社紹介

株式会社ソラシドエア



商号	株式会社ソラシドエア
本社所在地	宮崎県宮崎市大字赤江 宮崎空港内(宮崎空港ビル2階)
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 山岐 真作
設立年月日	1997年7月3日
資本金	1億円
従業員数	1,097名
保有機材	ボーイング737-800型機 14機

2026年7月1日現在

ソラシドエアは本社を宮崎県宮崎市に構え、地域に根差した“九州・沖縄の翼”として、おもに羽田・沖縄と九州を結ぶ路線を運航しています。機材はボーイング737-800型機を14機揃え、平均81cmのゆとりある座席間隔（一部機材を除く）で快適な機内環境を提供しています。ブランドプロミス『空から笑顔の種をまく。』のもと、お客様のニーズに合わせたソラシドエアらしいおもてなしで“笑顔ひろがる心地よい”サービスを追求しています。

11都市を結ぶ14路線で1日80便運航しています。

【運航路線】

宮崎 ↔ 羽田	鹿児島 ↔ 那覇	石垣 ↔ 那覇
熊本 ↔ 羽田	宮崎 ↔ 那覇	福岡 ↔ 那覇
長崎 ↔ 羽田	神戸 ↔ 那覇	
鹿児島 ↔ 羽田	中部 ↔ 那覇	
大分 ↔ 羽田		
那覇 ↔ 羽田		
鹿児島 ↔ 中部		
宮崎 ↔ 中部		

